

降臨節第2主日 マルコ1章1―8節

〔新共同訳〕

- 1 神の子イエス・キリストの福音の初め。
- 2 預言者イザヤの書にこう書いてある。
「見よ、わたしはあなたより先に使者を遣わし、あなたの道を準備させよう。」
- 3 荒野野で叫ぶ者の声とする。

『主の道を整え、

その道筋をまっすぐにせよ。』

そのとおり、4 洗礼者ヨハネが荒野野に現れて、罪の赦しを得させるために悔い改めの洗礼を宣べ伝えた。5 ユダヤの全地方とエルサレムの住民は皆、ヨハネのもとに来て、罪を告白し、ヨルダン川で彼から洗礼を受けた。6 ヨハネはらくだの毛衣を着、腰に革の帯を締め、いなごと野蜜を食べていた。7 彼はこう宣べ伝えた。「わたしよりも優れた方が、後から来られる。わたしは、かがんでその方の履物のひもを解く値打ちもない。8 わたしは水であなたたちに洗礼を授けたが、その方は聖霊で洗礼をお授けになる。」

①構成

①a 神の子イエス・キリストの福音

マルコ1章1―15節は福音書全体の序と見ることが出来る。マルコはマタイやルカとは違って、イエスの系図や誕生物語を書くことなく、洗礼者ヨハネの証言から始めている。マルコはイエスの伝記ではなく、「神の子イエス・キリストの福音」を書くこうとしている。彼は伝記作家のように、主人公の誕生や成長に関する記事には興味を持たない。また、パウロはイエスの十字架と復活に焦点を絞っているが、パウロの福音理解とは違って、マルコはイエスにまつわるさまざまな出来事を報告している。病気に代表される悪の力や、人間を抑圧するものとなった宗教的伝統から人を解放する出来事にも、イエスの福音を見ているからである。

②2―8節の構成

1節は表題である。2節以降は次のようなキアスムス（交差配列法）で構成されている。

- a 神の言葉Ⅱキリストの前にヨハネを派遣する（2―3節）
 - b ヨハネの活動Ⅱ荒野野で洗礼を授ける（4―5節）
- b' ヨハネの姿Ⅱ再来の預言者エリヤ（6節）
- a' ヨハネの言葉Ⅱキリストの先駆け（7―8節）

神の言葉に基づいて、洗礼者ヨハネは活動し、その姿は預言者エリヤのものであり、彼自身も自分がキリストの先駆けであることをはっきりと宣言している。

㉔ 2―3節

2節書かれているように 預言者イザヤの書に
4節現れた 洗礼者ヨハネが 荒れ野に

直訳で見ると、2節の「書かれているように」は、4節の「洗礼者ヨハネが現れた」にかかっている。神はイエスを通して救いの業を行うが、それに先立ち洗礼者ヨハネを派遣する。人々を罪の闇から救うために神が歴史に介入する。

㉕ 4―5節

4節現れた 洗礼者ヨハネが 荒れ野に

そして 宣べ伝えながら 悔い改めの洗礼を **罪**の赦しのための。

5節そして **出て行った** 彼のもとに

ユダヤ地方の全体が そして エルサレムの人々が皆、

そして 彼らは**洗礼を受けた** 彼によって ヨルダン川で

告白しながら **彼らの罪**を。

4節は、5節三行目、四行目と「洗礼」と「罪」によって対応している。その間に「出て行った」が挟まれているが、この動詞は動作の継続を表す未完了形であり、人々が続々とヨハネのもとに集まる様子を描いている。

㉖ 6節

ヨハネの姿は預言者エリヤを彷彿とさせる。当時、マラキ3章1節と23節を組み合わせ、預言者エリヤが終わりの日の前に再来すると考えられていた。この引用によりマルコは、洗礼者ヨハネは再来のエリヤであること、神の救いが開始されようとしていることを示す。

マラキ3章1節

見よ、わたしは使者を送る。

彼はわが前に道を備える。

マラキ3章23節

見よ、わたしは

大いなる恐るべき主の日が来る前に

預言者エリヤをあなたたちに遣わす。

㉗ 7―8節

2―3節は天上での神の言葉であり、これに呼応して、地上では洗礼者ヨハネが、彼の後に聖なる霊で洗礼を施す方、つまり救いの成就をもたらす方が来ると宣言する。

② 神が主導する福音の初め

① 福音の幕開け（1節）

初め 「神の子」イエス・キリストの 福音の

原文では創世記と同じように、1節冒頭に「初め」という語が置かれている。この「初め」は、ただ福音に関する物語の開始を意味するだけでなく、待ちに待った福音が今、始まるという緊張感を表している。神が救いのために歴史に介入する。その「今」がこの語によって強調されている。神の子であるイエスは神の福音を示すために派遣されようとしている。「イエス・キリストの福音」とは、「イエス・キリストに関する福音」であると同時に、「イエス・キリストが宣べ伝えた福音」でもある。

② 神の言葉（2―3節）

⑦ 2―3節は旧約聖書からの複合引用。イザヤからの引用は3節だけであり（イザ四〇3の七十人訳）。2節の引用の前半部は出エジプト記23章20節の傍線部と一致する。出エジプト記では、「あなた」はイスラエルの民、「使い」は天使を指しているが、マルコは「イエス・キリスト」とその先駆けを指すものとして引用する。

見よ、わたしはあなたの前に使いを遣わして、あなたを道で守らせ、わたしの備えた場所に導かせる。

後半部はマラキ3章1節の引用。マルコは傍線部の「わが前に道を」を「あなたの道を」に変えている。

見よ、わたしは使者を送る。彼はわが前に道を備える。

旧約聖書の本文では登場人物は二人、「わたし（神）」と「使者」である。しかし、マルコの引用では、「わたし」と「あなた」と「使者」の三人の人物が登場する。さらに、3節のイザヤの引用も含めると、ここには「わたし」と「あなた」と「使者」と「荒れ野で叫ぶ者」が登場する。この「わたし」が神であり、「使者」と「荒れ野で叫ぶ者」は同一人物であり、洗礼者ヨハネを指すことは明らかであるから、「あなた」はイエス・キリストを指しているはずである。

④ そうであれば、2―3節の言葉は天上で神がイエスに語りかけた言葉である。荒れ野に洗礼者ヨハネが現れようとするとき、天上では神がイエスに語りかけている。「私はお前に先だつて使者を送る。彼は『荒れ野で叫ぶ者』であつて、お前の道を準備する者である」。神はイエスにこう語りかけて、地上で活動する日が到来したことを告げている。こうして、「福音の初め」が、神の完全な主導のもとに開始される。

◎洗礼者ヨハネの活動（4―5節）

⑦天上の神の声に呼応して、洗礼者ヨハネが荒れ野に「現れた」。彼が「罪の」赦しのための悔い改めの「洗礼」を宣べ伝えると、それに応じて、ユダヤからもエルサレムからも人々が続々と出て来て、「罪を」告白して「洗礼を受けた」。神に呼応して活動を起こした洗礼者ヨハネ（4節）に応じて、人々が行動を起こし（5節）、主の道を整える（3節）。しかし、マルコは人々の心の思いを一言も述べずに、行動だけを淡々と描写する。すべてを引き起こすのは神の言葉であり、その言葉に注目しているからである。

⑧ルカ3章7―9節では、ヨハネは厳しい裁きを語っている。

7 そこでヨハネは、洗礼を授けてもらおうとして出て来た群衆に言った。「蝮の子らよ、差し迫った神の怒りを免れると、だれが教えたのか。8 悔い改めにふさわしい実を結べ。『我々の父はアブラハムだ』などという考えを起こすな。言っておくが、神はこんな石ころからでも、アブラハムの子たちを造り出すことがおできになる。9 斧は既に木の根元に置かれている。良い実を結ばない木はみな、切り倒されて火に投げ込まれる。」

しかし、マルコでは洗礼者ヨハネは裁きではなく、「悔い改めの洗礼」を宣べ伝え、主の到来に準備するように呼びかける。彼が施す洗礼はイエスがもたらす「悔い改め」の前ぶれであり、それによって、イエスが私たちのもたらす道が「まっすぐにされる」。

⑨悔い改め（メタノイア）

メタノイアは「考えを変える・意見を改める」ことを表し、これまでの考えの不備や間違いが意識されているときには「後悔する・悔やむ」を意味する。しかし、聖書がこのギリシア語を用いる場合、「生き方全体の根本的な転換」を指すと言える。なぜ全面的な転換が可能になるかという、神の行為に基づく転換だからである。この語の背景にはヘブライ語のシューヴ（向きを変える）がある。聖書の述べる「悔い改め」は「神の業にあわせて向きを変えること」、「つまり「神に立ち帰ること」を表す。しかも、旧約聖書の「悔い改め」は、神の定めた正しい道である「律法」への回帰であったが、新約聖書では「神の子イエス」へと立ち帰ることである。なぜなら、イエスは神の心を余すところなく現した方だからである。従って、新約聖書では「悔い改め」と「信仰」と「イエスへの信従」は同じ事柄の別の側面になる。

⑩宣べ伝える（ケーリュッソー）

ケーリュッソーは「告げ知らせる・大声で布告する」の意味。使徒の活動に数多く使われることから分かるように、何かの教えを自分のものとして抱え込むのではなく、それを使信として外へと広げていく活動を表している。したがって、イエスの起こした出来事を「言い広める」（マコ145、五20、ルカ八39）の意味でも使うが、大多数の用例では、神からの知らせを「告知する・宣べ伝える」ことを指す。キリスト者以外の者が律法や割礼を「宣べ伝える」（使一五21、ガラ五21）（こともあるが、このような用例はわずかであり、ほとんどは洗礼者ヨハネやイエス、そして弟子や使徒たちが主語となる用例である）。

洗礼者ヨハネは、罪の赦しを得させるために悔い改めの洗礼を「宣べ伝える」。悔い改め（メタノイア）とは単に自分の中で罪を悔いることではない。神に背を向けた生き方から離れ、神

の方へと方向を変えることが、悔い改めである。しかし、この方向転換は人の努力で引き起こされるのではない。神と出会うことが、それを引き起こす。洗礼者ヨハネは、この悔い改めに備えるために、水で洗礼を施している。

④ 洗礼者ヨハネの姿（6節）

洗礼者ヨハネは預言者エリヤと同じ服装で現れる。

列王記下 1章 8節

「毛衣を着て、腰には革帯を締めていました」と彼らが答えると、アハズヤは、「それはテイシユベ人エリヤだ」と言った。

預言者エリヤは、終わりの日に再来する特別な預言者と信じられていた（マラ三23）。待ち望んだ預言者エリヤはすでに来ている。決定的な時はすぐそこに迫っているとマルコは述べる。

⑤ 洗礼者ヨハネの言葉（7―8節）

⑦ 7―8節は、神の言葉を述べる2―3節と対応して、洗礼者ヨハネの言葉を伝えている。洗礼者ヨハネはイエスの「道」を準備する先駆けであるから、

「わたしよりも優れた方が、後から来られる。わたしは、かがんでその方の履物のひもを解く値打ちもない」

と宣言する。洗礼者ヨハネは「悔い改めの洗礼」を宣べ伝えることによって、再来のエリヤとしての役割を果たし、神の決定的な介入を告げ知らせた人であるが、その彼も「後から来る方」と比べれば、「その方の履物のひもを解く値打ちもない」人物だとされる。当時の社会では、履物のひもを解くのは奴隷の仕事とされていたから、洗礼者ヨハネと「後から来る方」との相違が非常に強調されていることになる。

⑧ その方が「優れた方」であり、洗礼者ヨハネを凌駕する理由は、「聖霊で洗礼をお授けになる」ということにある。洗礼者ヨハネは水で洗礼を施すが、来たるべきメシアは聖霊によって施す。当時、イスラエルには霊が降らず、神はイスラエルから遠ざかったと考えられていた。しかし、神は霊を再びイスラエルに降し、決定的な救いをもたらそうとしている。ここでの聖霊は個人というよりは、時代全体を新たにする力である。時代が変わり、新しい救いの時代が聖霊と共に到来しようとしている。

⑨ 洗礼を施す（バプティズム）

動詞バプティズムは「浸す・沈める」を意味する。洗礼という儀式を表すために使われ、その大多数の用例では、洗礼者ヨハネが施していた洗礼（マコ一8）と教会が入信の儀式として施した洗礼（使二41）を表すが、ユダヤ教の沐浴を指すこともある（マコ七4）。また、イエスが洗礼を施したことを述べるのはヨハネ福音書だけである（ヨハ三22・26）。しかし、この語がキリスト教の洗礼概念との関係を保ちながら比喩的に使われ、殉教を指したり（ルカ一二50）、聖霊による洗礼（マコ一8）を表すこともある。

⑩ 8節の聖霊による洗礼は、入信儀式的洗礼というよりは、イエスによって始められる新しい時

代が霊に満ちた、救いの時代であることを表している。この転換は、「水」と「聖霊」の対比によって示されるだけでなく、動詞の時制の違いによっても示されている。洗礼者ヨハネは「洗礼を施した」（過去形＝アオリスト形）が、イエスは「洗礼を施すだろう」（未来形）。ヨハネの洗礼はイエスの前ぶれにすぎない。洗礼者ヨハネは、すぐ後に続くイエスを指し示す「矢印」なのである。洗礼者ヨハネの洗礼については「洗礼を施した」というように、現在形ではなく、過去形の動詞が使われているが、過去形にすることによって、時代の転換を強調しているのかもしれない。

③ 神の言葉によって起こされる救い

④ マルコがイエスの宣教に先立って洗礼者ヨハネの活動を報告するのは、ヨハネ本人に興味があるからではない。むしろ、彼の姿を通して透けて見える神の働きを描くためである。だから、まず旧約聖書を引用し（2―3節）、それをヨハネの洗礼活動にあてはめている（4―8節）。主人公は洗礼者ヨハネではなく、天上でイエスに話しかけ、時が来たことをイエスに知らせ、行動を促す神である。

⑤ イザヤ 40―55章は第二イザヤの言葉。第二イザヤは紀元前五三八年の「キュロスによるバビロン征服による、捕囚民のエルサレム帰還」の直前にバビロンで活躍した預言者である。第二イザヤの序章となる40章は、「慰めよ」という神の言葉で始まる（1節）。2節には「苦役の時は今や満ち」とあるから、バビロン捕囚の終了が神によって宣言されている。捕囚からほぼ四十年の間、神は沈黙していたが、今まさに神の栄光が現れようとしている（5節）。その栄光は自然の変貌を通して明らかにされるが（3―4節）、それは捕囚民が滞ることなく帰還するためのものでもある。驚くべき救いは神の言葉によって起こされる。8節に「草は枯れ、花はしぼむが、わたしたちの神の言葉はとこしえに立つ」と述べられるように、人はこの力ある神の言葉に信頼することが求められている。

⑥ バビロン捕囚の時代と同様に、長い間神は沈黙していた。しかし、終わりの時に神は歴史に介入し、救いのための行動を起こす。イエスはこの世に現れ、ヨハネから洗礼を受ける。

水の中から上がるとすぐ、

天が裂けて、霊が鳩のように御自分に降って来るのを、御覧になった。

すると、「あなたはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」という声が、天から聞こえた。

（マコ 10―11）

「天が裂ける」とは、断たれていた神との関係が修復され、天と地の間に対話が再開したことを表す象徴表現である。そして「霊が鳩のように降る」。これは天地創造の際に「水の面を動いていた」神の霊を（創 1―2）、あるいは神の全権をイエスに付与し、神からの使命を遂行させる力を思い起こさせる表現（イザ 1―2、四 1、六一 1、六三 11）。

神は神の民を見捨てたのではなく、その時が来るのを待ち続けていた。イエスの到来と共に、神の声が響き、聖霊の力に包まれて生きる新しい時代が始まる。洗礼者ヨハネは先駆けとして、神の子イエス・キリストが現れるその時が目の前に迫っていることを告知する。洗礼者ヨハネを動かしている神へと目を上げることが、救いを待ち望む力となる。